

社会文化学会 第20回

2017年12月15日～17日



抵抗の文化は可能か？

12月15日 15:00～

エクスカージョン（板橋区ハッピーロード大山商店街）

12月16日 13:30～17:00

全体シンポジウム(5号館5121教室)

「抵抗の文化は可能か——社会運動の再考」

谷和明（東京外国語大学名誉教授）

「九条俳句訴訟からみる政治的中立と市民的公共性」

清真人（元近畿大学教授・「戦後世界史と日本 市民ネット」代表）

「社会文化学会への提案——抵抗の文化蘇生イニシアチブの幾つか」

稲葉剛（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授）

「貧困の現場から社会を変える——野宿者運動、反貧困運動の経験から」

司会・趣旨説明：和田悠（立教大学）

17:10～18:10

総会

18:30～20:30

懇親会（多国籍創作料理 レッドピーマン 豊島区池袋3-1-2）

12月17日 9:30～12:25

自由論題

12:30～13:30

ランチタイム交流会（6号館6206教室）

14:00～16:30

サブシンポジウム（6号館6205教室）

「子どもと創る社会文化——教育・福祉・ジェンダー」

山下敏雅（弁護士）

「セクシャリティと学校・虐待・非行」

土屋佳子（スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー/京都大学大学院）

「スクールソーシャルワーカーから見た学校・教師・子ども」

司会・趣旨説明：清原悠（立教大学）

自由論題

	6210 教室	6209 教室	6204 教室
9:30 ～ 10:10	原田美穂子 （横浜国立大学・院） 「美術教育からアートへ 鑑賞表現一体化直接対決の美術——『見たモノレポート発表課題』報告」	Shah Alam Mohammad （日本大学） 「国際地域開発におけるBrain Drain 問題の影響とその実態」	
10:15 ～ 10:55	吉本裕子 （横浜市立大学） 「エカシ（老翁）の記憶を展示する——北海道二風谷アイヌ文化博物館の事例から」	日暮雅夫 （立命館大学） 「批判的社会理論の対抗戦略——新自由主義批判のために」	関口英里 （同志社女子大学） 「地域社会と文化の活性化を目指したプロジェクト学習の実践」
11:00 ～ 11:40	木下太朗 （京都社会文化センター） 「町名表示板から地域アイデンティティを考える——京都市における仁丹町名表示板を例として」	足立弦也 （立命館大学・院） 「A.ホネットの承認論から見る社会参加の喪失と再生——日本社会におけるひきこもりの承認論的考察」	Kakin Oksana （お茶の水女子大学・院） 「未熟さを消費する日本人——ジャニーズ Jr.を事例に消費者行動から読み解く」
11:45 ～ 12:25	芳賀達彦 （大阪府立大学・院） 「闇市における『モラル・エコノミー』の発露——大阪市の事例から」	加野泉 （名古屋大学） 「子育てにおけるジェンダー役割の再構築——アメリカ・ヘッドスタートの家族規範の検討をもとに」	渡辺暁雄 （東北公益文科大学） 「『民衆文化』論の展開と『生活』概念の登場——大正期における榎田保之助の言説を中心に」

会場 立教大学 池袋キャンパス 5号館・6号館（東京都豊島区西池袋3-34-1）

アクセス JR各線・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ丸ノ内線／有楽町線／副都心線
「池袋駅」下車。JR改札口から徒歩約7分。

参加費 1,500円（非会員の一参加1,000円）〔懇親会〕一般4,000円、大学院生2,500円



問合せ 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3丁目34-1 立教大学 文学部教育学科 和田悠研究室
E-Mail: taikai20@japansocio-culture.com TEL: 03-3985-2480
URL: http://japansocio-culture.com/

立教大学
池袋キャンパス
会場

